天満神社

館山市沼字前山一一六〇

菅原 道真公（学問の神様）

●社格：旧村社　●例祭日：8月1日　●宮司：加茂信昭
●本殿：瓦葺入母屋造　●鳥居：神明鳥居
●神紋：星梅鉢　●境内坪数：64坪
●氏子数：約720世帯（岡沼370、西の浜210、西原140）

由緒

安房国の国司である源親元卿（柏崎國司神社に祀られている）が嘉保三（一〇九六）年に、京都北野天満宮より勧請し創始したと伝えられ、祭神は学問の神様である菅原道真公です。境内には地元館山藩の絵師・川名楽山の記念碑（明治三十三年）や枇杷山開拓者・法木翁の碑（昭和四十四年）、書家・小野鷲堂が揮毫した明治三十五年の菅公一千年祭記念碑と菅原道真公の歌を書いた植樹記念碑、北条にいた伯爵・方里小路通房が題額を書いた拝殿改築記念碑（大正八年）等があります。

神社には重く変わった形の桶胴太鼓と思われる大太鼓が残され、御面もある事などから、かつては「羯鼓舞」等の舞が奉納されていたと思われます。

菅原道真公の逸話に登場する牛

拝殿に飾られている龍の彫刻

拝殿の片隅に眠る古い太鼓

地域の自慢

かつて十七年間神輿を担ぐ事が途絶えていた祭礼を、三地区の青年会を結束して、新たに「天神会」（祭礼実行委員会）を組織し、三地区の氏子による「崇敬会」（十二天神社氏子の会）等、地域の人々の団結により、昭和五十五年に復活させ、現在は活気溢れる祭礼を行っています。「天神会」は他地区の賛同者や女性も在籍する一〇〇人を超える会へと成長し、南総里見まつり等のイベントにも積極的に参加する等、地域全体が一致協力し合い、しっかりとした運営のもと、十一月二十三日の新嘗祭等、一年を通して多彩な行事が執り行われています。

その中でも、毎年大晦日の夜十時から天満神社にて開催している「除夜祭」は、ライトアップされた神輿が展示され、学問の神様、菅原道真公を参拝する受験生をはじめ、多くの人で賑わいを見せる自慢の行事です。午前〇時には太鼓の音を合図に、「崇敬会」会長の音頭で一斉にお参りをしています。この除夜祭から新年にかけては、ここ数年神輿を担ぎ、参拝者に「さし」た状態の神輿の下をくぐる「胎内くぐり」をして頂く催しも行っており、皆様に大変喜ばれています。

また、天満神社の「大神輿（おおでん）」に施された三代後藤義光の彫刻だけでなく、十二天神社社殿、正面向拝の虹梁の上の、「三本爪で後ろを振り向いた姿の龍」の初代後藤義光の手による彫刻も、自慢の一つと言えるでしょう。

十二天神社の初代後藤義光の彫刻

自慢の祭

館山のまつり（たてやまんまち）の出祭では、神輿渡御コースには幣束の付いた縄が張られ、西の浜集会所前の広場にはお浜出こそしませんが、天満神社の「大神輿（おおでん）」と十二天神社の拝殿に納められている「小神輿（こでん）」（子ども神輿）のお仮屋が建てられます。大神輿、小神輿二基による大人から子どもまで一体となった〝こいしょい〟〝よいよい〟の威勢の良い掛け声が町に木霊し、広い地区の一日がかりの祭りを盛り上げます。

自慢の神輿が高く舞う

館山神社への入祭

8/1・2 館山のまつり

祭りの起源　大正三年、旧館山町（現在の青柳、上真倉、新井、下町、仲町、上町、楠見、上須賀地区）と、旧豊津村（現在の沼、柏崎、宮城、笠名、大賀地区）が合併し館山町になったのをきっかけに、大正七年より毎年十三地区十一社が八月一日・二日の祭礼を合同で執り行うようになりました。その後、大正十二年の関東大震災により、諏訪神社（下社）、諏訪神社（上社）、厳島神社、八坂神社の四社倒壊のため、協議により四社の合祀を決め、昭和七年館山神社として創建されました。

現在は館山十三地区八社として、神輿七基、曳舟二基、山車四基がそれぞれの地区から出祭しています。愛称「たてやまんまち」として、城下の人々によって伝え続けられてきた〝心のまつり〟です。

館山神社境内に集まった神輿

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。

平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）